

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「克己」のもと、専門コース設置校として、新たな時代に対応する確かな学力と、時代の変化に対応できる主体性や課題解決能力を持ち、将来にわたり学び続ける自己教育力を備えた心豊かな人物を育成する学校 1 新たな時代に対応する確かな学力や課題解決に活用することのできる思考力・判断力・表現力等を育む学校 2 「踏み出せ、一步」をスローガンに、将来にわたり目標や課題意識を持ち、自ら学び続けるとともに、主体的に行動できる人材を育成する学校 3 多様な価値観を尊重し、人間関係を構築できる、豊かな人間性、社会性を備えた人材を育成する学校

2 中期的目標

1 確かな学力の定着と学びの深化 (1)「わかる授業」をめざして授業改善に取り組む。 ア 主体的・対話的で深い学びによって、生徒の学習意欲を向上させ学習内容の定着を図る。 イ 観点別学習状況の評価を進めながら、計画・実践(指導)・評価・改善による検証を行い、指導と評価の一体化を進める。 ウ ICT 機器や1人1台端末の効果的な活用を進める。 ※学校教育自己診断(生徒)「『自分で考える力』が身についた」の肯定率 88%以上(R4 81.2%、R5 83.3%、R6 81.2%) 同「自分で物事を調べ、発表する機会がある」の肯定率 90%以上(R4 91.6%、R5 94.4%、R6 94.8%) (2)生徒の進路実現を支援する。 ア 3年間の進路指導方針・計画に基づき、生徒の希望に基づく進路指導および情報提供等を計画的に実施し、早期の進路意識の醸成に努める。 イ 進学講習や補習、勉強合宿、勉強会の充実を図る。 ウ 外部模試の計画的・積極的な受験を推進し、生徒が自分の目標と到達度を的確に理解する指導体制を作る。 ※4年制大学進学率 60%以上。(R4 60.7%、R5 66.9%、R6 59.9%) ※学校教育自己診断(生徒)「進路についての情報をよく知らせてくれる」の肯定率 88%以上(R4 80.6%、R5 80.6%、R6 85.9%) 2 将来を見据え自ら人生を自ら切り拓いていく態度を育成する取り組みの推進 (1)キャリアデザインについて考えさせる。 ア 「総合的な探究の時間」・「LHR」等を活用し、自分の人生・生き方を見つめ、将来の「キャリアデザイン」について考えさせる。 イ 「総合的な探究の時間」等を活用し、主体性や課題解決能力を育成する。 ※学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率 90%以上(R4 84.5%、R5 84.2%、R6 87.1%) (2)人権を尊重する意識・態度の育成と自己肯定感の醸成 ア 様々な分野の講師による講演等、計画的に人権教育を実施し豊かな心を育む教育を推進する。また、いじめを未然に防止し、早期に発見・解決するために、いじめに関する校内組織を中心に継続的・組織的に取り組む。 イ 学校行事・学年行事の企画・立案・運営に生徒が関わる機会を作り、達成感を感じられるよう取り組みを進める。 ※学校教育自己診断(生徒)「本校では、人権尊重や命の大切さについて学習する機会が多い」の肯定率 90%以上(R4 91.1%、R5 95.5%、R6 91.3%) 3 自主・自立の精神を養い、将来にわたり学び続ける自己教育力を備えた生徒の育成 (1)社会性の育成、規範意識・マナーの向上に取り組む。 ア 生徒の規範意識を高めるとともに、「薬物」、「情報リテラシー」等に関する正しい理解を深める。 (2)課外活動で地域社会と繋がり、多様な人と協働すること等により、将来にわたり学び続ける自己教育力を備えた生徒の育成に努める。 ア 入学時のクラブ紹介、体験入部等の企画を工夫し、部活動の充実に努める。 イ 生徒会活動や学校行事のさらなる活性化に継続して取り組み、生徒が主体的に運営する機会を増やす。 4 学校全体の課題解決に向けた取り組み (1)働き方改革の推進 ア 業務分担の見直し、グループウェア等を活用した校務運営の効率化、一斉退庁日の実施を徹底することにより、働き方改革を進める。 (2)広報活動と地域連携 ア 上記中期的目標1～3の積極的な情報発信に努め、生徒・保護者・中学校等との連携を進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化	(1)「わかる授業」をめざして授業改善に取り組む。 (2)生徒の進路実現を支援する。	ア 研究授業や日常的な授業見学を実施し、授業改善に取り組む。 イ 教材や評価法の好事例を共有すること等により、観点別学習状況の評価方法について検証し、指導と評価の一体化をすすめる。 ウ ICT 機器や1人1台の端末の効果的な活用を進める。 ア 生徒の希望に合わせた進路指導および情報提供等を実施 イ 進学講習や補習、勉強合宿、土曜勉強会を充実 ウ 外部模試の計画的・積極的な受験を推進	ア 研究授業や授業見学の実施 イ 学校教育自己診断(教職員)「教材の精選や指導方法の工夫をしている」肯定率の向上[93.5%] 学校教育自己診断(生徒)肯定率の向上 「『自分で考える力』が身についた」[81.2%] 「学習評価(成績)は、テストの得点以外の部分(観点)からも評価されている」[90.8%] ウ 同肯定率 「自分で物事を調べ、発表する機会がある」92%以上を維持[94.8%] 「授業では、コンピュータやプロジェクターを活用している」92%以上を維持[94.7%] 「本校は生徒1人1台端末を効果的に活用している」肯定率 93%以上[95.2%] アイウ 4年制大学進学率 60%以上[59.9%] 学校教育自己診断(生徒)肯定率の向上 「進路の情報をよく知らせてくれる」[85.9%] 「補習や講習が充実している」[83.7%] 進路別進学講習会の実施	
2 将来を見据え自ら人生を切り拓いていく態度を育成する取組みの推進	(1)キャリアデザインについて考えさせる。 (2)人権を尊重する意識・態度の育成と自己肯定感の醸成	ア 「総合的な探究の時間」・「LHR」等を活用した取組みの推進 イ 探究委員会が中心となり「総合的な探究の時間」の充実を図り、主体性や課題解決能力を育成 ア 計画的な人権教育の推進 いじめを未然に防止し、早期に発見・解決するために、いじめに関する校内組織を中心に継続的・組織的に取り組む。 生徒支援の充実 イ 学校行事・学年行事に主体的に参加できる取組みをすすめる。	ア 学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」肯定率の向上[87.1%] イ 「総合的な探究の時間」の計画的な運用と充実 探究発表会の実施[3回] ア 学校教育自己診断(生徒)肯定率「人権尊重や命の大切さについて学習する機会が多い」肯定率 90%以上[91.3%] 同「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定率の向上[85.5%] 教育相談委員会(月1回)、支援委員会(学期1～2回)の開催	
3 学び続ける自己教育力を養い、将来にわたり自主・自律の精神を備えた生徒の育成	(1)社会性の育成、規範意識・マナーの向上に取り組む。 (2)課外活動で地域社会と繋がり、多様な人と協働すること等により、将来にわたり学び続ける自己教育力を備えた生徒の育成に努める。	ア 規範意識を高めるとともに、基本的生活習慣を確立する。 「薬物」、「情報リテラシー」等に関する指導に取り組む。 ア 入学時のクラブ紹介、体験入部等の企画を工夫し、部活動の充実に努める。 イ 生徒会活動や学校行事のさらなる活性化に継続して取り組み、生徒が主体的に運営する機会を増やす。	ア 学校教育自己診断(生徒)「学校生活について先生の指導には納得できる」肯定率の向上[67.0%] 同「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」90%以上[90.1%] ア 同肯定率の向上 「学校行事や生徒の活動が活発な学校である」[89.2%] 「クラブ活動が活発な学校である」[88.0%] イ 学校教育自己診断(保護者)肯定率の向上 「生徒指導の方針に共感できる」[74.6%] 「学校行事及びクラブ活動は活発に行われている」[88.5%]	
4 学校全体の課題解決に向けた取組み	(1)働き方改革の推進 (2)広報活動と地域連携	ア 業務分担の見直し、グループウェア等を活用した校務運営の効率化、学校部活動方針及び一斉退庁日の実施を徹底することにより、働き方改革をすすめる。 ア 積極的な情報発信により、生徒・保護者・中学校等との連携をすすめる。	ア 運営委員会や職員会議等 50 分以内 平均残業時間の削減[34.5 時間] ア 定期的な学校 HP のブログ更新 中高連絡会の実施[1回] 学校教育自己診断(保護者)「教育活動について連絡ツールやホームページ等で情報提供している」肯定率の向上[95.9%]	